

日本文学



バケモンの涙

歌川たいじ／著
光文社（2020年）

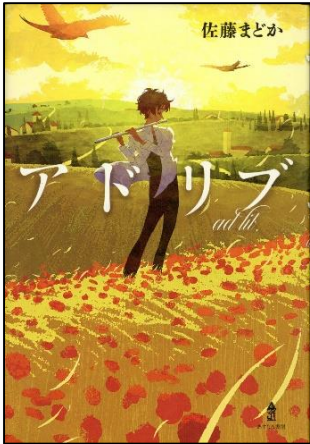
頃は太平洋戦争ただ中。飢えで亡くなる教え子を看取ったことで、19歳のトシ子は、一握りの穀物が少ない燃料で食糧になるポン菓子製造機の開発に乗りだした。お嬢さん育ちだと侮られても持ち前の負けん気と一途さで道を開いて行く。

いつかの岸辺に跳ねていく

加納朋子／著
幻冬舎（2019年）

^{まもる}護の幼なじみの^{てつこ}徹子は変わり者。でも本当は何かを隠している…？大切な人たちを守るため、自分を犠牲にする徹子が強くて優しい。物語の後半、謎が次々と解き明かされ、人が人を思う深い愛に心打たれるお話です。





アドリブ

佐藤まどか／著

あすなる書房（2019年）

両親の離婚で母とイタリアで暮らす日本人の少年、ユージ。フルートと出逢い、音楽を続ける喜びと厳しさに悩み奮闘しながらも、多くの人に支えられ、自分の道を進んで行く。作中に出てくる曲をBGMに読書したくなる、本から音が聞こえてくるような青春音楽小説。

あかつき 跳べ、暁！

藤岡陽子／著

ポプラ社（2020年）

ある事情により郊外の学校に転校した中学2年の女の子。なじみにくい雰囲気クラスだったうえ、やりたい女子バスケット部がなかった…。様々な家庭環境をかかえた仲間が支えあい励ましあいながら、女子バスケット部を立ち上げてゆく、青春バスケット物語。





みつきの雪

眞島めいり / 作 牧野千穂 / 絵
講談社 (2020年)

信州の村で暮らす主人公満希^{みつぎ}のもとに山村留学生の行人^{ゆきと}がやってきた。友達になり7年間一緒に過ごした2人は、高校卒業を機にそれぞれの道に行くことに。旅立つ友を思うやさしい気持ち^{みつき}が伝わるお話です。

あとは野となれ大和撫子

宮内悠介 / 著
KADOKAWA 角川文庫 (2020年)

中央アジアの小国アラルスタン。後宮では少女たちが生活し、教育を受けていた。突然の大統領殺害により、国は大混乱に。真っ先に犠牲になる弱者たちを守るため、軍事に外交に、後宮の少女たちが立ち上がった！

